

コモンズからのお知らせ

ひきこもりからの回復を支えるために Pa r3t
地域に青年が通える場を実現しよう

日 時 3月18日(土) 10:00~16:00

会 場 茨城大学工学部 参加費 1000円(弁当代含む)

内 容 10:00 講演「青年の居場所の意義とつくり方(仮)」
講師 駒沢大学専任講師 萩原 建次郎さん

13:00 青年支援NPOの活動報告

14:00 グループ討議(情報交換、相談)

16:00 閉会

ひきこもりや若者の自立支援に関心のある方、ぜひご参加下さい。
事前にコモンズまでお申込み下さい。

コミュニティレストラン「とらい」
～ 3周年記念サービス～

アフタヌーンティ

～ 国際交流サロン・桃の節句特別企画～

巻頭でお知らせしたように、とらいスペースの活動は3周年を迎えます。ランチタイムには活動を理解し支援して下さったお客さまへミニケーキをサービスいたします。

期間: 2月20日(月)～3月3日(金)



「タイの民族衣装展」と「生け花写真展」を開催します。タイと日本の文化を体験してみませんか。

開催日時: 平成18年3月3日(金)

15:00~17:00

開催場所: レストラン「とらい」

申込締切: 平成18年2月28日(火)

参加費: 300円(お茶代)

定員: 20名

主催: N&N Corporation

協賛: NPOセンター・コモンズ

問合せ先: N&N Corporation

TEL & FAX: 0299(92)2178

email: nandn@npo-commons.jp

特定非営利活動法人 茨城NPOセンター・コモンズ

〒310-0063 水戸市五軒町2-23-102

TEL: 029-80-4321 FAX: 029-80-4320

URL: http://www.npo-commons.org

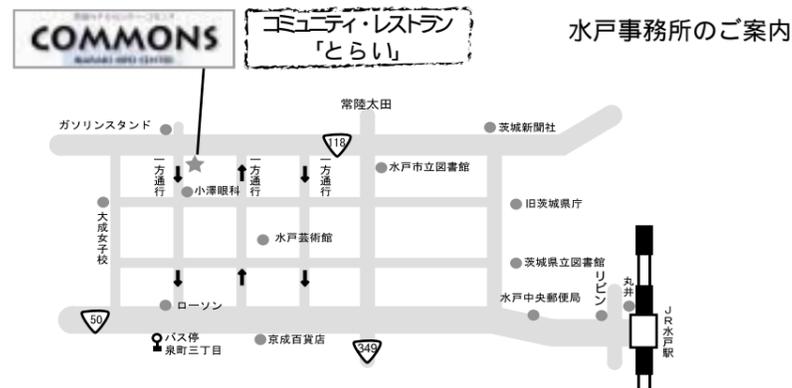
MAIL: info@npo-commons.org

つくばオフィス

〒305-0022 つくば市吉瀬1876-1つくば文化郷別館202号

TEL & FAX: 029-857-7000

水曜日のみ、お越しの際は事前にご連絡下さい



団体会員一覧

水戸本町三丁目商店街振興組合
NPO法人 水戸こどもの劇場
NPO法人 ジュース
ジョイスター株式会社
NPO法人 茨城YMCA
NPO法人 ひたち親子劇場
ウルノ商事 株式会社
NPO法人 こすもす
NPO法人 子ども劇場茨城
NPO法人 ユーアンドアイ
NPO法人 いばらき介護福祉の会
NPO法人 おおぞら
NPO法人 日本医療救援機構
NPO法人 自然生クラブ
NPO法人 共楽館を考える集い
NPO法人 リヴォルヴ学校教育研究所
NPO法人 ワークスたんぼぼを支える会
NPO法人 福祉支援団体ふれあいいなほ
茨城県青年海外協力隊を育てる会
NPO法人 アサザ基金
NPO法人 茨城県精神障害地域ケア研究会
NPO法人 ふじしろ福祉の会
生活協同組合ハイコープ
NPO法人
自立生活センター・ライフサポート水戸
有限会社 つくばインキュベーションラボ
NPO法人 ビスターりさとみ会
中央労働金庫
NPO法人 取手市手をつなぐ育成会
NPO法人 ままとーん
NPO法人 環境市民クラブ
スミミング・サークル・岩瀬
NPO法人 穴塚の自然と歴史の会
NPO法人 来夢ハウス
NPO法人 ゆりの会
NPO法人 つくばクリエイティブ・リサイクル
NPO法人 生活支援ネットワークこもれび
NPO法人 ふるさと元気塾
NPO法人 まちづくり市民会議
NPO法人 にこにこサービス
NPO法人 子どもの研究所
NPO法人 水戸共に育つ会
NPO法人 ニューライフカシマ21
赤塚みなみ保育園
社会福祉法人 ユーアイ村
NPO法人 筑波山環境クラブ
NPO法人 いきいきネットワーク
NPO法人 あすかユアネット
NPO法人 いきいき・サポート
有限会社 すのう商事
ファミリーサポートしあわせ
NPO法人 あゆみ
NPO法人 並木会
NPO法人 日本ダウン症ネットワーク
日本労働組合総連合会 茨城県連合会
神栖市リサイクルプラザ就労支援部会
NPO法人 ドリーム たんぼぼ
NPO法人 N&N Corporation
NPO法人 HSEリスク・シーキューブ
東海村支部「NPOレーキゅうぶ東海村」
NPO法人 エイエスピー
NPO法人 福祉サポートセンター県西さわか
NPO法人 ナルク水戸

以上62団体(順不同)
2006年2月1日現在

コモンズは、市民の活動を支え、NPOの活動環境を改善し、市民団体・行政・企業の連携を広げるため、会員を募集しています。

年会費 個人 5,000円 団体 10,000円
購読会員は 年3,000円



「コモンズ」とは市民・企業・行政・市民団体などが自由に参加して情報を交換し
新しい価値観を共有・創造する場を意味してします

特集

住民福祉の実現に向けて
地域住民との交流・くらし協同館なかよし
NPOフォーラム2005 in つくば報告

9時50分、塚越さんとNPO法人「くらし協同館なかよし」のスタッフが元気な声で朝のミーティングを始めます。スタッフ全員が顔をあわせ、当日のスケジュールを確認し、気持ちも新たに一日のスタートである。

理事長である塚越教子さんは「立ち上げの原動力となったのは地域の仲間
の力、新しいことに立ち向かう気持ち、そしてやりがいを見つけたこと」と穏やかに語った。

(2ページに続く)



NPO法人 くらし協同館なかよし
理事長 塚越 教子さん

コンテンツ

- 1 表紙 NPOの人
くらし協同館なかよし
理事長 塚越 教子さん
- 2 塚越さんに聞く
福祉の現場はNPOで
- 3 コラム 人から人へ
- 4 報告 NPOフォーラム
- 6 協働・連携、新聞記事から
- 7 アメリカNPO事情 その2
- 8 コモンズからのお知らせ

「とらい」スペース事業3周年のごあいさつ

3周年を迎えるスペース事業

青年の社会参加を支援することを目的に「とらい」スペース事業を開始し3年がたちました。

コミュニティレストラン「とらい」も2月20日に開店3周年を迎えます。「とらい」にお出でいただいた皆さま、お弁当などの注文をくださった多くの方々へ心よりお礼を申し上げます。

レストランの経営は、厳しい状況が続いておりますが所期の目的達成のため、日々がんばっております。

今後とも、ますますのご支援をいただけますようお願いいたします。

(コモンズ副代表理事 朝川 君代)



茨城でNPOにとり組む人と
応援する人を増やす...
それがコモンズの使命です。

第2号

発行日 2006年2月15日

発行 茨城NPOセンター・コモンズ

住民交流の場、井戸端会議の場

「手作り」で結束力

2005年11月18日「くらし協同館なかよし」は、地域の主婦を中心として産声を上げた。理事長である塚越教子さんは、設立当時を振り返り「悩み、苦しみ、そして勉強をした」と笑顔で答えてくれた。「原動力となったのは地域の仲間力、新しいことに立ち向かう気持ち、そしてやりがいを見つけたことである。さらに成し遂げた後のみんなの笑顔ありがとうの言葉、それに勝るものはない」と言う。

塚越さんが「くらし協同館なかよし」を立ち上げたのは、住まいのあるひたちなか市本郷台団地にあった生協の店舗が閉鎖されることになり、自家用車など交通手段を持たない高齢者が買い物にも不自由し、出歩く機会を失い自宅へこもりがちになっている現状を目の当たりにしたからである。そんな時、地域福祉プロモーター養成講座を受け、塚越さんが長年胸の中で温めてきた住民流福祉の実践を心に決めた。立ち上げに際しては、生協から空き店舗を無償で借りる条件としてNPO法人化を提示されたこともあり、立ち上げを決意した。店舗の無償貸与という生協のバックアップにも恵まれた。

さらにスタッフが「可能な限り自分たちの手作りで」と汗を流したおかげで、スタッフの結束力が強まった。

おばさんパワーが支える場

「くらし協同館なかよし」は現在会員88名、賛助会員98名で運営している。

スタッフは地域の主婦、今のところ全てボランティアである。担当スタッフは、各部門のリーダーが手配しているが、やりくりがきつい時でも「私や

るわ」と気軽に引き受けてくれる頼もしい人もいる。団地内での古いお付き合いのおかげか、地域のおばさんパワーを感じる。

スタッフは自らなんでもこなす。北風の中、2名のスタッフは、近所の農家の方が朝持ち込んだ土の付いたままのニンジンやネギを手際よく分量を量り袋に詰めていく。大きさは不揃いだが、買い物に来た子どもを連れのお母さんが「この野菜は安心して子どもに食べさせられる。それに新鮮で安いから」と言っていたのもうなずける。

また、お惣菜を作るコーナーでは、4名のスタッフが毎日平均10種類のお惣菜を作っている。時には冗談を言いながらであるが手際がよい。ひじきご飯、きんぴら、切干大根など昔懐かしい味も並ぶ。しかも値段は良心的だ。

物販コーナーは一般の食料品をはじめ福祉作業所で作られた作品、レンタルコーナーに展示されたものなどさまざまだが、スタッフはレジを打ちながら来店したお客さまへ近々行なわれるイベントの紹介をする。そのスタッフは「塚越さんとは古い付き合いだが、人を引っ張っていく力があるし、がんばり屋です」と人望もあつい。



福祉作業所「花詩工房」の作品



レンタルボックスに展示された作品



北風の中ニンジンの袋詰め



1月の小正月行事で作った「まゆだま」

アメリカのNPOから学ぶ

寄付の文化を育むもの

その2



寄付した人のネームプレート

前号に続き横田事務局長のアメリカ調査報告をお届けする。
アメリカでは、なぜ寄付がさかんなのか、
どうすれば寄付市場をつくっていいのかヒントを探る。

社会貢献は市民の権利

ニューヨークのセントラルパークには、歩道に沿って延々と緑のベンチが並んでいます。よく見ると人の名前が書かれたプレートがあります。これは公園を管理するNPOに寄付した人の名前です。

NPOによる公園管理の費用は行政の委託費で賄っていますが、不足部分は市民（数万人）からの寄付で運営しています。NPOが人々のまちへの想いを見える形にし、資金を活用している好例です。この方法は日本でも導入されています。

これらのNPOを支援する中間組織として、コミュニティ財団があります。財団には、自分の財産を地域に役立ててほしいという個人の基金が何百も登録されています（写真右下）。財団では基金設置者の意向に沿ったNPOを探して審査の上、助成を行っています。いわば、資金を地域に生かしたい人と、資金を受けたいNPOの橋渡し役がコミュニティ財団です。

NPOへの寄付が所得控除になる制度があって、

コミュニティへの恩返しを形にしてくれるNPOと資金の橋渡しをするコミュニティ財団、そして自分もコミュニティにかかわりたいという市民の感覚がある。この感覚は子どもの頃からボランティアに関わる中で培われるのでしょうか。これがアメリカの寄付社会の仕組みです。

さらに寄付市場が誕生したことで、最近では寄付者のための情報サービスとして、日本の帝国データバンクのようなNPOの評価・格付け団体もできています。

なぜ寄付文化が大事なのか

今後、日本のNPOの自律的發展にとって寄付市場は重要です。資金が増えるとともにそれができれば、規制監督を強めることなく寄付という信任投票で、目的や成果に応じて団体が選ばれる仕組みができます。寄付というと「どうせ集まらない」「寄付は施しをうけること」「他人のお金を当てにしない」という話をされる方もいます。確かに自助努力は大前提で



セントラルパーク



ニューヨークコミュニティ財団



個人の寄付のパンフレット

協働環境調査報告 茨城編

市民と行政が手を携えて

2006年1月25日、つくば研究支援センターにおいて協働環境調査報告会が開かれた。調査を実施したI I H O E「人と組織と地球のための国際研究所」の川北秀人代表、同芝原浩美上級研究員、主催者の茨城NPOセンター・コムズ(県内調査担当)、NPOセンター・with you つくば市民活動推進機構、そして市民、NPOや行政関係者約40名が参加した。

全国184の自治体が回答した調査結果の概要報告後にワ・クショップでの質疑応答が実施された。

本調査は市民参加による協働を進める制度や体制を整えるために15の設問を0～6の評価で採点する方法を取った。「点数を競争せずに(ランキング無し)全体的に見て、市民が評価をどうするかが大切」と川北氏。「次のステップと

して点数が低い自治体には条例・指針の策定プロセスに市民を巻き込む(見直し・中間評価)、点数が高かった自治体には協働事例や審査結果をより広く公開する、審査機関や政策協議の場に市民を参画させることが大切」とも。

また、川北氏は「茨城県の今後の課題として協働に関して市民と行政の両輪で進める、1年毎に進捗具合のすり合わせる、中間組織の重要性等が提案された。また企業との協働は1対1ではなく、多対多(グル・プ交際)で、地域貢献の看板の下に商工会や商店会の力を借りることもありうるのでは」と述べた。

参加者からは「自治体の本音が聞きたかった」「多くの視点から様々な協働を考えることができた」というような声があった。

新聞に掲載された茨城のNPO

- ふれあいの場開設。住民70人、ボランティアで運営。NPOくらし協同館なかよし(読売・2005/11/25)
- 石岡、風土記花暦を合唱。カラオケや歌謡ショーも。NPO常陸国地域振興フォーラム(茨城・2005/11/25)
- つくば駅に光の森。発光ダイオード10万個。NPOつくばアーバンガーデニング(茨城・2005/12/4)
- かしてつ存続リストバンド。沿線販売。3月にメッセージ発信会。NPOまちづくり市民会議(朝日・2006/1/10)
- ダイエー跡地の再生計画提案へ。水戸、商店街とNPO。NPO茨城の暮らしと景観を考える会(朝日・2005/12/22)
- 地域を元気に。NPO平沢歴史文化財フォーラム(読売・2006/1/8)
- 土浦100円バス。地域づくり総務大臣表彰。利用好調。NPOまちづくり活性化バス土浦(茨城・2006/1/19)
- 夜空の輝き楽しく学ぶ。牛久自然観察の森。NPOうしく里山の会(茨城・2005/11/19)
- 波崎の鹿島灘で「市民の風車」今月着工。NPOが発案。収益は環境整備に。NPO波崎未来フォーラム(朝日・2006/1/12)
- 北茨城の自然薯出荷。「甘く、粘りも十分」作柄好評。NPO地域資源を活かすNPOリ・フレッシュ(茨城・2005/12/1)
- ウズベク伝統舞踊を披露。理事の芳賀さん。現地訪れ交流。NPOアーツダンスアカデミー(茨城・2005/12/15)
- 講演、討論を実施。若年者就職支援シンポ。30日、水戸。NPO雇用人材協会(茨城・2005/11/22)
- 5施設で新管理者。県の指定制度、候補選出。NPO日本スポーツ振興協会(朝日・2005/11/29)
- 鹿島市の指定管理者制度。当初は従来団体指名。5年後に公募実施。NPOかしまスポーツクラブ(茨城・2005/12/14)
- 霞ヶ浦の外来魚、肥料に。NPO、農・漁業者ら連携。NPOアサザ基金(茨城・2006/1/18)
- 「コミレス」に注目集まる。食を通し地域活動。不登校・ニート...社会へ経験積む。とらい(東京・2006/1/13)
- つくば、ベンチャー大賞に2社。農業、医療行政で成果。NPOつむぎつくば(茨城・2005/11/11)
- J入りへ虎視眈々。ユース強化へ。会員数2位「隠れた大クラブ」NPOつくばフットボールクラブ(朝日・2005/11/23)
- 美野里、安全運転を"再点検"。介護事業所、運転手対象教室。NPO交通事故予防センター(茨城・2005/11/28)
- つくばの名建築一冊に。NPOが出版。写真600点超で106紹介。NPOつくば建築研究会(朝日・2005/12/22)
- 飛び出せ! 団塊。再就職で「第2の生きがい」発見。須能馨・茨城NPOセンター・コムズ(毎日・2006/1/1)
- "助け合い弁当"届けて20年。第6回ニューエルダーシチズン大賞。松田和枝・NPOゆりの会(読売・2006/1/10)

記事は、活動分野ごとに次のように分類しています
 福祉 まちづくり 環境 国際 教育・子ども 協働 その他

地域の主婦が力をあわせ「みんなが生きがいをもって元気に暮らせるまちづくり」をモットーに立ち上げたNPO法人「くらし協同館なかよし」の塚越さんは地域福祉プロモーター養成講座」第3期卒業生。地域に密着した住民流福祉をめざしボランティアの主婦たちと毎日忙しく活動している。



理事長 塚越 教子さん

1941年生まれ。ひたちなか市馬渡在住。生活協同組合ハイコープ理事。茨城県生活協同組合連合会理事。生協ハイコープ助け合いの会「たんぼぼ」会長。生協ハイコープ本郷台店店舗運営委員会事務局。



NPO法人 くらし協同館なかよし

312-0012 ひたちなか市馬渡525-498
 Te | 029-273-8388
 Fax: 029-274-5127

くらし協同館なかよしは、みんなが生きがいをもって元気に暮らせるまちづくりをめざしさまざまな事業を展開している。
 地域を元気に、食を大切に
 地産地消、伝統食づくり、市民交流市
 ふれあいと生きがいづくり
 季節行事、食事も、レンタルボックス、各種カルチャー教室、憩いの場
 健康でいきいきと
 高齢者の食生活支援、健康講座・体操
 その他支え合いや各種相談など

顔が見える住民流福祉

大きなイベントの際には、スタッフ全員が手分けをして約1700枚のチラシを団地内にポスティングをする。声をかけながらチラシを配るおかげで思いがけない情報も集まってくる。「 のおじいちゃん具合悪いようだよ」「 さんのところで猫のもらい手をさがしている」など。これも心の通った住民流福祉だろう。

イベントも定例的なもの、単発的なものを組み合わせ、季節の行事などを取り入れ常に新鮮さを失わないよう心がけている。つい最近実施した「まゆだま」づくりは近所のお年寄りが先生である。でき上がった「まゆだま」は店頭で展示し好評だった。

また、和室のコーナーには、近所の小学生が遊びに来ていてコタツに

寝転んで本を読んだりおしゃべりをしている。「くらし協同館なかよし」は地域の高齢化を考えて発足させた場所であり、お年寄りにも来て欲しいと車椅子のまま利用可能なトイレも用意されている。

10年先もここで元気にいたい

塚越さんは「ここは住民交流の場、井戸端会議の場として地域にもっともって根付いてほしい。将来的には私たちがお子さんを預かり、子どもを持ったお母さんが気軽に参加できるようにしたい」と抱負を述べる。「本当の結果はこれからであり、身の丈にあった活動をしながらか地域のため、スタッフのやる気、やりがいを見つけながら楽しくやっていきたい。10年先も元気でいたい。顔見知りのたくさんいるこの地域で...」と結んでくれた。



コラム 人から人へ

「今が一番!」
 時々「もし戻れるものなら、いくつに戻りたい?」と聞かれることがあります。私はそんな時、すぐに「今が一番良い」と答えます。振り返ってみると我ながら、何と生憎気だったことが、何と気遣いのできないことだったかと、反省したり、後悔したり。人生で、最近になりやうと大人になれたかなど、感じているのです。子育ても終わり、人生の折り返しをかなり過ぎた今、少しずつ周りのことに注意をはらえるようになりました。途絶えてしまっていた縁日の復活や、空き店舗を利用しての駄菓子屋運営など、社会的に貢献しているような錯覚を起こすことも、実は自分が一番楽しんでるようになっています。
 今この瞬間が幸せと感じています。
 どんなNPO、活動団体にもつきものなのでしょうが、参加している人たちの温度差や、諸事情による退会届けを受け取る切なさなど、挫折感を味わうこともほんの少しはありますが、二年前からという短い活動の中で、驚くほど沢山の人のつながることができたネットワークを通じて、新しい活動が動き出す予感もあり、充実した毎日を送っています。
 本当に今の自分が一番好きです。

NPO法人 取手ぶるく
 代表 工藤 悦子



NPOの理解を深め交流を深めよう ～NPOフォーラム～

フォーラムは「蘇れ霞ヶ浦～NPOと企業のwin-win方式のパートナーシップ」のオープニングトークで開幕。

パネラーはNPO法人アサザ基金の飯島博代表理事と前NEC環境推進部長の久保田忠夫さん、NPO法人つくばアーバンガーデニング常務理事の井口百合香さんの3人。霞ヶ浦の水質保全を目指す「アサザプロジェクト」で、NECが2003年11月から学校ビオトープに機器を提供した事例や、両者が石岡市東田中の谷津田で取り組む無農薬の稲作などを紹介した。その中で飯島さんは「NPOは企業ニーズに合った環境保全活動を提案し、企業の可能性を引き出すことができる」と強調。久保田さんは「企業とNPOがそれぞれの得意分野を生かし、安心して暮らせる社会を実現しよう」と呼び掛けた。

筑波学院大では門脇厚司学長が「市民の社会力が社会を変える！」と題して講演。「『社会力』は人と人がつながりながら、より良い社会を築く力」と述べた上で、「誰かを思いながら協力して活動するNPOの取り組みが、人間本来の利他的な姿に戻ることにつながる」と結んだ。

この後テーマ別セミナーが開かれた。「NPOと企業の連携」「経済・環境・社会貢献を両立させる循環の仕組みづくり」「公共サービスの質を高める」の3テーマで活動例を紹介し、意見を交わした。

29日は「お父さんのためのNPO講座」と題し、シーズ=市民活動を支える制度つくる会プログラム・ディレクターの轟木洋子さん、NPO法人ままとーん理事長の平塚知真子さん、お父さんパネラーを含めた5人がパネルディスカッションを行いNPOの仕組みや現状を分かりやすく解説した。

その中で平塚さんは、子育て中の母親向けの冊子を当事者の手で出版しようと、周囲に「一緒にやりましょう」と何度も呼びかけてNPOをつくったことを強調した。「テーマや仲間を見つけて、気軽に活動に参加してほしい」と、市民の参加を促した。

午後からのアピールタイムでは、県内の約30団体が写真パネルやパンフレットなどを使い日ごろの活動を紹介した。



循環の仕組みづくり

コモンズは、茨城県経営者協会、茨城新聞社とともに、県内外NPOの最新動向を紹介する「茨城NPOフォーラム2005つくば」を10月28～29日に、つくばスタイルフェスタ会場と筑波学院大学で実施した。県内や首都圏からNPO関係者約300名が一堂に集まり活動をアピール、意見交換を実施して交流を深めた。

分科会セミナーBについて

セミナーBでは「経済・環境・社会貢献を両立させる循環の仕組みづくり」をテーマに4団体が発表した。

早稲田・高田馬場地域で2004年4月からアトム通貨はスタートした。地域住民と商店がともに展開する活動だ。3種類の通貨（1馬力=1円、10・100・200馬力がある）で地域のマップとプロジェクトを活用し、マルチカードとして自由に使えるが、生活必需品のみならず多様な価値観のある別の世界に目を向けられることを目的としている。「鉄腕アトムのイメージ通り、未来の子どもたちのために、環境に優しい、地域社会に優しい、国際社会に優しい社会という3本の柱を基本に活動を展開している」とアトム通貨実行委員会の松田卓也さん。また、この活動を通じて手塚治さんのメッセージである「人間の科学技術が人間社会を破壊することに気づいて欲しい」という。

NPO法人せっけんの街は1980年千葉県（我孫子市、柏市、流山市、沼南町）の消費者団体や生活クラブ生協、漁業組合、自然保護団体などの合成洗剤追放の直接請求運動（署名は数ヶ月で45,000人以上）が始まりだ。NPO法がなかったので、1984年に勝手賀沼せっけんをスタートさせた。さらに1994年、印旛沼石けん情報



センターを稼働させた。1999年には自然と命を守る責任を企業と行政に追及するのではなく、生活者である市民が手賀沼の加害者であると自覚し、NPOを立ち上げた。「資源循環は難しい問題。口コミで広めながら、広く住民からの知恵も借りたい」と代表理事の比戸寿代さんは語っていた。

埼玉県志木市で、まだ世に出ていないスポーツ選手などをサポートする事業を展開するのが、NPO法人サポートシステム。2001年に発足し、市民が特定の企業の商品を購入することにより企業がスポーツ選手などを援助するシステムで、企業と商店街の協力のもとに活動を展開している。

2004年にNPOへ融資を開始した水戸信用金庫は、社会性があり、安定した収入や事業収入のあるNPOを対象に10万円単位で500万円を上限に融資をしている。儲けを重視せずに（金利が低い）社会貢献事業として取り組んでいる。

これらのビジネスと社会貢献を組み合わせた取り組みについて質疑が行われた。

個が輝けば 組織も地域も変わる

フォーラム2005

NPO いばらき

つくば